

平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年1月31日

上場会社名 株式会社エイチワン 上場取引所 東
 コード番号 5989 URL http://www.h1-co.jp/
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 金田 敦
 問合せ先責任者(役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 伊藤 宣義 (TEL) 048-643-0010
 四半期報告書提出予定日 平成26年2月7日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日~平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	133,147	31.3	4,264	△8.7	4,572	△1.3	3,138	△16.2
25年3月期第3四半期	101,375	33.9	4,672	—	4,632	—	3,744	—

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 9,013百万円(92.9%) 25年3月期第3四半期 4,671百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	127.13	—
25年3月期第3四半期	151.99	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第3四半期	143,789	61,682	37.4	1,896.49
25年3月期	121,979	49,974	35.3	1,766.03

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 53,844百万円 25年3月期 43,077百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	10.00	—	10.00	20.00
26年3月期	—	11.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	11.00	22.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日~平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	176,000	27.5	6,300	12.6	6,500	15.6	4,000	△21.3	140.89

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料4ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数 (四半期累計)

26年3月期3Q	28,392,830株	25年3月期	25,750,830株
26年3月期3Q	971株	25年3月期	1,358,730株
26年3月期3Q	24,683,614株	25年3月期3Q	24,633,296株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する説明	2
(2) 連結財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く経済環境は、日本では設備投資の増加や雇用、消費の改善を通じて景気は回復基調にあり、米国でも生産活動が拡大基調にある中、雇用環境や住宅市場が底堅く推移しました。欧州経済も回復傾向にありますが失業率は高止まりが続いており、中国の経済成長は以前に比べて鈍化し安定成長の段階に入りました。

自動車業界においては、日本では上期の自動車販売は購入補助制度があった前年同期を下回りましたが、下期は新型車効果などから前年同期を上回って推移しています。北米では自動車販売の増加が持続しており、中国でも暦年の自動車販売台数が過去最高となる中、期初に日中関係の影響を受けた日系自動車メーカーの販売も回復し、再び拡大基調にあります。

このような中、当社グループは、第3次中期事業計画の経営方針である「現場に根ざした活動を通じ、品質、コスト、環境に優れた商品で世界No.1メーカーを目指す」に沿ってこれまでに培った技術力やグローバル展開を活かし、取引先開拓をはじめとした受注拡大に努めており、当第3四半期においては、10月にインドネシア共和国に鋳物素材から金型製作までを一貫して行うピー・ティ・エイチワン・コウギ・プリマ・オートテクノロジーズ・インドネシアを設立し、今後、競争力ある金型及び金型鋳物を、需要増加が見込まれるインドネシア国内をはじめグローバルに供給していくことを計画しております。

以上を受けた、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は、自動車フレームの生産が主に北米で増加したことに加え、為替換算上の影響があり1,331億47百万円(前年同四半期比31.3%増)となりました。利益面では、日本での上期の生産減少とタイの自動車購入補助制度終了に伴う反動減の影響から、営業利益は42億64百万円(同8.7%減)、経常利益は45億72百万円(同1.3%減)となりました。また、法人税等や少数株主利益の増加もあり、四半期純利益は31億38百万円(同16.2%減)となりました。

セグメントの業績につきましては次のとおりであります。

①日本

昨秋以降は新型車効果により自動車フレームの生産が増加しましたが、上期の生産が低調だった影響を補いきれず生産台数は前年同四半期に比べ減少したものの、在外子会社に対する金型及び溶接設備の売上が増加し、売上高は400億98百万円(前年同四半期比5.4%増)となりました。経常利益は上期の自動車フレームの生産減少の影響から13億66百万円(同24.9%減)となりました。

②欧州・北米

主力得意先の生産台数の増加や為替換算上の影響により売上高は613億16百万円(前年同四半期比33.2%増)、経常利益は10億30百万円(同32.1%増)となりました。

③中国

第3四半期連結累計期間における自動車フレームの生産は、期初の日中関係の影響から回復したことに加え、人民元に対して円安が進んだことが為替換算上でプラスとなり、売上高は223億90百万円(前年同四半期比20.0%増)、経常利益は23億9百万円(同11.8%増)となりました。

④アジア・大洋州

タイの補助金効果による自動車需要の拡大を受けて自動車フレームの生産が増加したものの、秋以降はその反動から需要が減少しており、売上高は179億78百万円(前年同四半期比133.8%増)となりましたが、経常利益は1億1百万円(同51.6%減)となりました。

なお、従来、連結子会社のエイチワン・パーツ(タイランド)カンパニー・リミテッドの決算日は12月31日でしたが、同社は当事業年度より決算日を3月31日に変更しております。これによりセグメント情報において同社の経営成績は、前第3四半期連結累計期間は前年1月から9月までを、当第3四半期連結累計期間は当年4月から12月までを使用しております。

(2) 連結財政状態に関する説明

① 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における連結財政状態は、たな卸資産が減少した一方で受取手形及び売掛金が増加したことなどにより流動資産合計が増加しました。また、有形固定資産を新たに取得したことなどにより固定資産合計が増加し、これらの結果、資産合計は1,437億89百万円(前連結会計年度末比218億10百万円増)となりました。

負債合計は、支払手形及び買掛金、長期借入金などが増加したことなどにより821億7百万円(前連結会計年度末比101億2百万円増)となりました。

純資産合計は、新株式の発行及び自己株式処分による資金調達により34億10百万円増加したことに加え、利益剰余金やその他有価証券評価差額金の増加、為替相場の円安によって為替換算調整勘定がプラスに転じたことなどにより616億82百万円(前連結会計年度比117億8百万円増)となりました。自己資本比率は37.4%(前連結会計年度比2.1ポイントのプラス)となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、税金等調整前四半期純利益、減価償却費、たな卸資産の減少、仕入債務の増加、株式の発行による収入や自己株式の処分による収入、長期借入れによる収入等の資金の増加がありましたが、売上債権の増加、有形固定資産の取得による支出や短期借入金の減少等の資金の減少によって41億44百万円(前年同四半期比28百万円増)となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、売上債権が増加したものの、税金等調整前四半期純利益、減価償却費、たな卸資産の減少、仕入債務の増加などにより前年同四半期と比べ74億33百万円(101.0%)増加の147億95百万円となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出した資金は、有形固定資産の取得による支出などにより、前年同四半期と比べ60億1百万円(42.9%)増加の199億91百万円となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、短期借入金の減少や社債の償還があったものの、株式の発行による収入や自己株式の処分による収入、長期借入れによる収入により前年同四半期と比べ4億円(11.9%)増加の37億59百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては、日本では消費税率引上げの駆け込み需要と新型車効果により生産が高位で推移し、北米や中国でも更に需要が拡大していくものと想定しております。このような事業環境のもと、連結業績につきましては、概ね公表済みの計画に沿って推移しており、平成25年10月30日公表の業績予想に関して変更はございません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,211	4,144
受取手形及び売掛金	19,826	23,066
たな卸資産	14,465	14,361
繰延税金資産	1,032	1,040
その他	3,777	3,232
流動資産合計	44,314	45,845
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	17,089	17,886
機械装置及び運搬具(純額)	24,419	27,072
工具、器具及び備品(純額)	9,604	18,310
土地	7,575	7,615
建設仮勘定	9,685	17,184
有形固定資産合計	68,374	88,068
無形固定資産		
ソフトウェア	138	176
その他	15	17
無形固定資産合計	153	194
投資その他の資産		
投資有価証券	7,444	8,162
長期貸付金	747	117
繰延税金資産	659	733
その他	699	779
貸倒引当金	△415	△111
投資その他の資産合計	9,135	9,681
固定資産合計	77,664	97,944
資産合計	121,979	143,789

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	17,110	22,089
短期借入金	18,136	18,724
1年内償還予定の社債	300	100
1年内返済予定の長期借入金	7,292	7,701
未払金	4,041	4,099
未払法人税等	1,217	1,487
賞与引当金	1,176	654
設備関係支払手形	928	1,507
その他	3,268	3,717
流動負債合計	53,472	60,080
固定負債		
社債	100	—
長期借入金	13,238	16,055
繰延税金負債	734	1,122
退職給付引当金	3,544	3,936
役員退職慰労引当金	272	245
債務保証損失引当金	357	434
その他	284	233
固定負債合計	18,532	22,026
負債合計	72,004	82,107
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,240	4,366
資本剰余金	12,237	13,459
利益剰余金	30,328	32,981
自己株式	△1,062	△0
株主資本合計	44,743	50,807
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	988	1,582
為替換算調整勘定	△2,654	1,455
その他の包括利益累計額合計	△1,666	3,037
少数株主持分	6,897	7,837
純資産合計	49,974	61,682
負債純資産合計	121,979	143,789

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	101,375	133,147
売上原価	88,790	119,421
売上総利益	12,584	13,726
販売費及び一般管理費	7,912	9,461
営業利益	4,672	4,264
営業外収益		
受取利息及び配当金	95	98
貸倒引当金戻入額	—	322
為替差益	87	119
その他	288	371
営業外収益合計	470	912
営業外費用		
支払利息	437	515
その他	73	89
営業外費用合計	510	604
経常利益	4,632	4,572
特別利益		
固定資産売却益	41	20
受取保険金	1,438	292
特別利益合計	1,480	312
特別損失		
固定資産廃棄損	52	35
固定資産売却損	6	5
投資有価証券売却損	—	97
減損損失	21	2
災害による損失	1,017	—
その他	—	0
特別損失合計	1,097	142
税金等調整前四半期純利益	5,015	4,742
法人税等	993	1,261
少数株主損益調整前四半期純利益	4,022	3,481
少数株主利益	278	343
四半期純利益	3,744	3,138

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	4,022	3,481
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3	594
為替換算調整勘定	645	4,938
その他の包括利益合計	649	5,532
四半期包括利益	4,671	9,013
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,056	7,841
少数株主に係る四半期包括利益	615	1,171

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	5,015	4,742
減価償却費	5,953	8,732
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△566	△532
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△57	△27
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	74	261
受取利息及び受取配当金	△95	△98
支払利息	437	515
固定資産売却損益 (△は益)	△35	△14
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	97
受取保険金	△1,438	△292
固定資産廃棄損	52	35
減損損失	21	2
災害による損失	1,017	—
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△18	△322
売上債権の増減額 (△は増加)	1,882	△1,358
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△577	1,500
仕入債務の増減額 (△は減少)	△5,108	2,906
その他	1,807	△265
小計	8,363	15,883
利息及び配当金の受取額	95	98
利息の支払額	△437	△516
保険金の受取額	1,438	292
災害損失の支払額	△883	—
法人税等の支払額	△1,213	△961
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,362	14,795
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額 (△は増加)	—	40
有形固定資産の取得による支出	△12,948	△21,637
有形固定資産の売却による収入	129	58
無形固定資産の取得による支出	△41	△80
投資有価証券の取得による支出	△433	△36
投資有価証券の売却による収入	—	1,038
その他	△696	626
投資活動によるキャッシュ・フロー	△13,990	△19,991

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	5,132	△976
長期借入れによる収入	7,489	9,336
長期借入金の返済による支出	△7,499	△6,974
社債の償還による支出	△300	△300
株式の発行による収入	—	2,252
自己株式の取得による支出	△1,026	△0
自己株式の処分による収入	—	1,157
配当金の支払額	△436	△512
少数株主への配当金の支払額	—	△224
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,359	3,759
現金及び現金同等物に係る換算差額	111	302
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△3,156	△1,133
現金及び現金同等物の期首残高	7,272	5,171
連結子会社の決算期変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	—	106
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,115	4,144

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

当社は平成24年5月21日開催の取締役会において会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式取得に関する事項について決議しました。これを受け、大阪証券取引所のJ-NET市場における買付けにより平成24年5月22日に普通株式1,300,000株、10億25百万円の取得を行いました。この結果、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が10億62百万円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

当社は、平成25年12月10日を払込期日とする公募増資及び自己株式の処分、平成25年12月25日を払込期日とする第三者割当増資を行い、当第3四半期連結累計期間において、資本金が11億26百万円及び資本剰余金が12億22百万円増加し、自己株式が10億62百万円減少しました。この結果、当第3四半期連結会計期間末において、資本金が43億66百万円、資本剰余金が134億59百万円、自己株式が0百万円となっております。

(セグメント情報等)

セグメント情報

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	日本	欧州・ 北米	中国	アジア・ 大洋州	合計		
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	29,704	46,032	18,068	7,570	101,375	—	101,375
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	8,353	16	595	118	9,083	△9,083	—
計	38,057	46,048	18,664	7,688	110,459	△9,083	101,375
セグメント利益(経常利益)	1,819	779	2,065	210	4,874	△242	4,632

(注) 1 セグメント利益の調整額△242百万円は、セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	日本	欧州・ 北米	中国	アジア・ 大洋州	合計		
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	31,779	61,295	22,179	17,893	133,147	—	133,147
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	8,318	21	211	84	8,636	△8,636	—
計	40,098	61,316	22,390	17,978	141,784	△8,636	133,147
セグメント利益(経常利益)	1,366	1,030	2,309	101	4,808	△235	4,572

(注) 1 セグメント利益の調整額△235百万円は、セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。